



女の子をとりまく世界の状況

～10/11は国際ガールズデー～

10月11日は国際連合が定めた「国際ガールズデー」です。2011年に定められた比較的新しい記念日で、日本ではあまり馴染みがないかもしれません。

世界中で取り組んでいるSDGs（持続可能な開発目標）でも、ジェンダー平等の実現がゴールの一つになっています。今回は、発展途上国の女の子を取り巻く現状をお伝えします。

女の子という理由だけで生きるのが難しい

南アジア等では、女性は稼ぎ手として期待できなかつたり、結婚の際の持参金が負担になったりする等の理由で、生まれる子が女の子だとわかった段階で中絶の対象になったり、病気になっても十分な医療を受けられなかつたりします。

学校に通えない女の子が世界で1億3200万人

世界では、小学校～高校にあたる6～17才で、これだけの女の子が教育を受けられない現実があります。

男の子が遊んだり、学校に行っている間に、女の子は何kmも遠くまで生活に必要な水を汲みに行ったり、兄弟の世話をしたり、食事の準備を手伝ったり、家事に追われています。



世界の女の子の5人に1人が児童婚を経験

世界では、約6億5,000万人の女の子が18才未満での結婚を経験していると言われています。

幼いうちに結婚し、妊娠・出産、家事等を行うことで教育の機会が奪われたり、健康を害したり、様々な悪影響が及ぶことが知られています。



- 教育を受けられないと、スキルや知識を高める機会がなく、経済的自立も困難
- 幼い頃の妊娠・出産は体が成長していないため、早産・死産になったり、母体への負担が大きくなって死に至るケースも。

※参考：プランインターナショナルホームページ、ワールドビジョンホームページ



こうした現状は少しずつ改善が見られていますが、国や地域の伝統文化や慣習、宗教儀式となっていて一気に変えていくのが難しい現実もあります。私たちができることは、関心を持ち続けること、そしてNGO等、彼女たちを支援する団体をサポートすることではないでしょうか。

このニュースレターも3年目を迎えることができました！これからも、男女共同参画に関する話題をわかりやすくお届けできるように頑張ります！

ジェンダー平等の扉を開いた偉人紹介

Vol.3

ジェンダー平等に尽力した日本の偉人をご紹介します

くすもと
楠本 イネ (1827~1903)

日本で初めての女性の蘭方医。

シーボルトと遊女の娘として長崎で誕生した。混血児として周囲の偏見を感じ、家に引きこもりながら、勉学に励み医師となった。

基礎医学、外科医学、オランダ語などを熱心に学び、築地で約7年間、産科を開業。腕利きと評判で、女性の医師のパイオニアとして活躍した。



今月知っておきたい言葉

ジェンダー統計

男女間の意識による偏り、格差及び差別の現状並びにその要因や現状が生み出す影響を客観的に把握するための統計のこと。

ジェンダー統計をめぐっては、近年、性的マイノリティ、特にトランスジェンダーの方に対する配慮から性別欄を削除する動きがあり、男女別データが取得できなくなることについての懸念が生じている。

出典：男女共同参画基本計画



新着図書のご紹介



パレア松本には図書コーナーがあります。どなたでも自由に本を読んだり、借りたりすることができます。

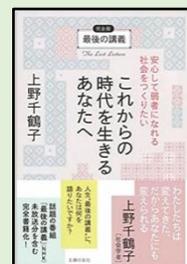


『生理で知っておくべきこと』(細川モモ著、日経BP、2021年)

女性の健康を考える時、生理抜きには語れません。日本人の多くがあまり理解していない生理の知識や栄養について、わかりやすくまとめてあります。その内容は目からウロコ&愕然とするものばかり。もっと早く知りたかった!! 今日から早速、日常生活を見直します。

『これからの時代を生きるあなたへ』(上野千鶴子著、主婦の友社、2022年)

女性学の第一人者、上野千鶴子さんが自分のこれまでのご自分の歩みとジェンダー平等に関する社会の動きを振り返り、まとめた一冊。もともと講義した内容を本にしているので、口語体で書かれており、すっと理解できます。上野さんからの渾身のメッセージを受け取って、私たちは何を感じるでしょうか。



このニュースレターは、松本市公式ホームページでも見ることができます。

Facebook、Twitter もやっています!

松本市女性センター



<編集・発行>

松本市 人権共生課 (松本市女性センター)

〒390-0811

松本市中央 1-18-1 Mウイング3階

TEL 0263-39-1105 /FAX 0263-37-1153